

「みんなつながる えがおのわ～障がいのある子もない子もつながりあえる仲間になろう～」

大阪府阪南市

活動名

阪南市立飯の峯中学校区地域教育協議会
「りんくる桃の木台」

関係する学校

飯の峯中学校・桃の木台小学校・桃の木台幼稚園・まい幼稚園・桃の木の森保育園

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）							
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の権利参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の権利参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- ・関西国際空港建設に関連した宅地造成に伴い新しい街ができ、様々な地域から移り住んできた住民が集まり、街づくりに際して、『この街に育ってよかった』と言える子供を地域ぐるみで育てようと、平成13年度に阪南市立飯の峯中学校区地域教育協議会、通称「りんくる桃の木台」を立ち上げた。
- ・「福祉感覚豊かな子どもの育成」を目指して、地域の各団体、小学校、中学校と連携して、主に地域住民が参加する行事を通して活動を行っている。
- ・主な活動には、夏まつりや冬のイベントへの参加や、地域をあげて、障がいについての理解を広げる「サンサンパーティー」、子育てをテーマにした講演会、土曜日等に「科学教室」を開催するなど、現在まで継続して活動を続けている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・障がい理解をテーマとする地域のフェスタ「サンサンパーティー」の取組が大きな特徴。
- ・自閉症の子供の保護者の方の「子どものことを知ってもらいたい」という思いと、地域の方の「知りたい」という思いが結びついて、平成18年に始まったフェスタ。学校と地域の連携により毎年1回、継続して実施されている。
- ・「りんくる」のメンバーと学校が、取り組む内容を相談して実施。中学校を会場として、様々な障がいをテーマとする10以上の体験ブースを中学生が担当し、小学3、4年生が中学生の案内によりブースを回って体験をする。このような、テーマ性が高く、小中学校が連携して関わるフェスタは府内でも余り例をみない。
- ・その他、土曜日等に「科学教室」を開催し、学校の授業では味わえない学びを子供や保護者に提供。
- ・また、子育てをテーマ（インターネット、金銭教育等）とした講演会を毎年実施し、地域で子育てを支援する環境づくりの醸成を図っている。
- ・コーディネーターは、障がいのある子どもの保護者と地域の人々のニーズをマッチさせるなど、保護者や地域のニーズを的確に受け止めた企画運営を行っている。

【実施に当たっての工夫】

「障がい理解」をテーマとした小・中学生中心のグループ体験学習であり、10程度のブースを中学生が運営するが、遊びの部分と学習の部分をしっかり区別できるよう、その運営スタッフの指導を地域の人々や小中学生の保護者をお願いしている。サンサンパーティー以外の取組においても、常に地域の方と子供たちのコミュニケーションの場としてとらえ、関西空港開港とともにできた新しい街を「おらがふるさと」と思えるまち作りの一助となるよう、意識して運営している。



車椅子体験

事業を実施して

- ・学校と地域が連携協力して子供を育てるといった機運が高まった。
- ・地域の子供は地域で育てるといった環境醸成につながっている。
- ・行事に参加した地域住民から、「飯の峯中学校生のおかげでたくさんお客さんに来てもらうことができたし、小さい子供の扱いもうまく、手際が良い。」と感想が出るなど、中学生の成長がうかがえる。地域を背負う柱としていける機会が活躍を期待している。

その他

地域では、実際に障がいのある子供もたくさん入学し、充実した学校生活を送り、卒業していつている。障がい教育はもちろんであるが、以前嚙唾（ろうあ）の友達があったことがあり、そのときからずっと小学校では入学当初から手話を学習し、全校児童並びに教職員が手話で会話することができる。校歌も普段から手話を交え、斉唱している。



授産施設の作業体験（入所者と）